

タイトル	彙報・活動・編集後記・規定
著者	
引用	年報新人文学(22)
発行日	2025-12-25

令和六年度 大学院文学研究科

◆学位論文題目一覧

修士学位論文

●日本文化専攻修士課程

氏名	修士論文題目
多米 玲奈	幻想の装置としての短歌——葛原妙子を中心に
武田佑希子	近世国学者における黄泉比良坂の解釈 ——後藤夷臣『八雲路日記 三上』と『泉国弁』 を中心に——
太田 幸夫	芥川龍之介の「女」論 ↳「詩的精神」と「ジヤアナリスト」の視点から
林 香苗	三浦綾子『銃口』 試論——研究史とその課題——

●英米文化専攻修士課程

氏名	修士論文題目
城田 龍星	現代英語における発音と綴り字の不一致
福井 花也	レッシングによるイソップ的寓話において 古代ギリシャ・ローマの神々が与える効果

◆ 授業科目及び担当者

● 日本文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅡA	鈴木英之教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅢA	田中 綾教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅢB	田中 綾教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅢC	田中 綾教授
論文指導Ⅱ	田中 綾教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅣA	徳永良次教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅣB	徳永良次教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅣC	徳永良次教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅦA	大石和久教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅦB	大石和久教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅦC	大石和久教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅠA	片岡耕平教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅠB	片岡耕平教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅠC	片岡耕平教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅡA	郡司 淳教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅡB	郡司 淳教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅡC	郡司 淳教授
論文指導Ⅰ	郡司 淳教授

授業科目	担当教員
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅢA	手塚 薫教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅢB	手塚 薫教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅢC	手塚 薫教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅣA	須田一弘教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅣB	須田一弘教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅣC	須田一弘教授

●英米文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠA	田中洋也 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠB	田中洋也 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠC	田中洋也 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡA	岩田 哲教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡB	岩田 哲教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡC	岩田 哲教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢA	上野誠治 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢB	上野誠治 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢC	上野誠治 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣA	佐藤貴史 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣB	佐藤貴史 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣC	佐藤貴史 教授
論文指導Ⅱ	佐藤貴史 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤA	渡部あさみ 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤB	渡部あさみ 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤC	渡部あさみ 教授

授業科目	担当教員
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦA	森川慎也 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦB	森川慎也 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦC	森川慎也 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠA	柴田 崇教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠB	柴田 崇教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠC	柴田 崇教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡA	大森 輝教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡB	大森 輝教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡC	大森 輝教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢA	小松かおり 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢB	小松かおり 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢC	小松かおり 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣA	仲松優子 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣB	仲松優子 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣC	仲松優子 教授

● 日本文学専攻修士課程

授業科目

担当教員

日本文学特殊講義 I	関本真乃 准教授
日本文学特殊講義演習 I A	関本真乃 准教授
日本文学特殊講義演習 I B	関本真乃 准教授
日本文学特殊講義 II	田中 綾教授
日本文学特殊講義演習 II A	田中 綾教授
日本文学特殊講義演習 II B	田中 綾教授
日本文学特殊講義 III	月岡道晴 講師
比較文学特殊講義 II	杉江聡子 准教授
比較文学特殊講義演習 II A	杉江聡子 准教授
比較文学特殊講義演習 II B	杉江聡子 准教授
日本思想特殊講義 II	大石和久 教授
日本思想特殊講義演習 II A	大石和久 教授
日本思想特殊講義演習 II B	大石和久 教授
日本語研究特殊講義 I	丸島 歩 准教授
日本語研究特殊講義演習 I A	丸島 歩 准教授
日本語研究特殊講義演習 I B	丸島 歩 准教授
日本語研究特殊講義 II	徳永良次 教授
日本語研究特殊講義演習 II A	徳永良次 教授
日本語研究特殊講義演習 II B	徳永良次 教授

授業科目

担当教員

日本史特殊講義 I	片岡耕平 准教授
日本史特殊講義演習 I A	片岡耕平 准教授
日本史特殊講義演習 I B	片岡耕平 准教授
日本史特殊講義 II	郡司 淳教授
日本史特殊講義演習 II A	郡司 淳教授
日本史特殊講義演習 II B	郡司 淳教授
日本史特殊講義 III	東 俊佑 講師
環境文化特殊講義 I	手塚 薫教授
環境文化特殊講義演習 I A	手塚 薫教授
環境文化特殊講義演習 I B	手塚 薫教授
環境文化特殊講義 II	須田一弘 教授
環境文化特殊講義演習 II A	須田一弘 教授
環境文化特殊講義演習 II B	須田一弘 教授

●英米文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
英米文学特殊講義 I	渡部あさみ教授
英米文学特殊講義演習 I A	渡部あさみ教授
英米文学特殊講義演習 I B	渡部あさみ教授
英米文学特殊講義 II	森川慎也教授
英米文学特殊講義演習 II A	森川慎也教授
英米文学特殊講義演習 II B	森川慎也教授
英語研究特殊講義 I	上野誠治教授
英語研究特殊講義演習 I A	上野誠治教授
英語研究特殊講義演習 I B	上野誠治教授
英語研究特殊講義 II	岩田 哲教授
英語研究特殊講義演習 II A	岩田 哲教授
英語研究特殊講義演習 II B	岩田 哲教授
英語研究特殊講義 III	田中洋也教授
英語研究特殊講義演習 III A	田中洋也教授
英語研究特殊講義演習 III B	田中洋也教授
欧米思想特殊講義 I	小柳敦史 准教授
欧米思想特殊講義演習 I A	小柳敦史 准教授
欧米思想特殊講義演習 I B	小柳敦史 准教授

授業科目	担当教員
英米思想特殊講義 II	佐藤貴史教授
英米思想特殊講義演習 II A	佐藤貴史教授
英米思想特殊講義演習 II B	佐藤貴史教授
欧米思想特殊講義 III (環境文化特殊講義 e III)	瀬名波栄潤講師
欧米史特殊講義 II	大森一輝教授
欧米史特殊講義演習 II A	大森一輝教授
欧米史特殊講義演習 II B	大森一輝教授
欧米史特殊講義 III	仲松優子教授
欧米史特殊講義演習 III A	仲松優子教授
欧米史特殊講義演習 III B	仲松優子教授
環境文化特殊講義 e I	小松かおり教授
環境文化特殊講義演習 e I A	小松かおり教授
環境文化特殊講義演習 e I B	小松かおり教授
環境文化特殊講義 e II	柴田 崇教授
環境文化特殊講義演習 e II A	柴田 崇教授
環境文化特殊講義演習 e II B	柴田 崇教授

文学研究科教育・研究発表活動

◎二〇二五年度 第一回全体ゼミ（中間報告）

七月五日（土） 9：55～14：50 21番教室にて開催された。修士課程と博士（後期）課程に在学する六名の院生が次の題目の論文の構想とその内容の一部を発表した（参加者約25名）。

渡辺 駆 「中原中也の詩の音楽性―ベルクソンの〈時間〉をめぐって―」

藤野戸 柺希 「特定技能2号を目指す外国人のための適切な日本語学習支援のあり方―農業分野における耕種農業を中心に―」

武田 佑希子 「近代における神話的場所の形成―黄泉比良坂伝承碑を中心に―」

國岡 健 「尾崎三良の上院構想―通款社・華族会館を通して―」

伊藤 翔太 「平安時代における仏教的天皇観の形成について」

孔 継金 「蓮如の宿善観」

◎二〇二五年度 第二回全体ゼミ（中間報告）

十一月一日（土） 10：00～11：45 22番教室にて開催された。修士課程と博士（後期）課程に在学する三名の院生が次の題目の論文の構想とその内容の一部を発表した（参加者22名）。

坂本 渚月 「石狩市浜益区における祭りの継承と地域資源化―川下八幡神社例大祭を中心に―」

中嶋 奏子 「啓蒙時代の植民地インドにおけるイギリス人女性旅行作家の言説の揺らぎ―イライザ・フェイ著『インドからの手紙』を手がかりに―」

林 香苗 「三浦綾子『銃口』生成研究―〈境界を生きる『銃口』―」

●『年報新人文学』第二号をみなさまにお届けします。本号は巻頭言、論文三編、資料紹介一編を収めています。本号の論文は北海学園大学大学院文学研究科に在籍し、現在講師を務める研究者や現役の大学院生によって執筆されたもので、いずれも地道な調査・研究活動の成果となっています。執筆者のみなさまの厳正な査読を引き受けてくださった査読者の方々には心よりお礼申し上げます。

●巻頭言は、大森一輝教授による「天に唾する——排外主義にまつわる国民的自画自賛と健忘症／怒りと笑いと憂いのA I 狂騒曲」です。自分とは異なる他者へ寛容のまなざしを向けることにより、共感の基盤を築くヒントが詰まっています。国内における昨今の目に余る排外主義の対象となる「文化の違う外国人」の振る舞いは、かつての己の先達の海外旅行におけるそれと二重写しであることを、数々のエビデンスをもとにご指摘いただきました。これらは日本人が犯した戦争加害という過去を、戦後八〇年足らずで、すでに省察するちからを喪なつてきていることも通底しています。戦争を引き起こした主体がいつの間にか抜け落ち、あたかも天変地異のごとく悲劇に巻き込まれたと他人事にしてしまふ雰囲気や支配的になりつつあるのではないのでしょうか。歴史を安易に修正するのではなく、歴史の経験から真摯に学び、現在や将来に活かすことの重要性を再認識しました。言葉がかつてないほどちからをそがれ、「考える」ことより「思う」ことを優先する風潮が広がっているのは、テクノロジーの進展にともなう生成AIの普及と濫用が、ヒトのみが有するとされてきた「考察・省察するちから」を衰えさせていることに起因しているとの懸念を、教育現場で痛感することも確実に増えているように思います。自然科学の成果による先端技術の拡張と人間を取り巻く社会・経済情勢の急激なうねりのなかで、人間に対する想像力と感性を研ぎ澄ませつつ、多様な価値観やウェルビーイングの在り方を追求していくことにおいて、人文学が果たせる役割は決して小さなものではありません。本号に収められたそれぞれの論考は、これからの社会を考えるうえでも、すでにオリジナルな輝きを放っています。

●今号からはペーパーレス化に移行し、オンライン上のジャーナルにかたちを変えますが、その価値が減じることはありません。本研究科には今号のように優秀な投稿者の他にも着実に研究を進めている大学院生が多数在籍しています。本誌は、姉妹誌である『人文論集』とは異なり、査読を経て論考が掲載される学術誌です。大学教員からの珠玉の論文投

稿以外にも大学院生からの投稿も歓迎しています。みずからの研究を振り返りつつ、鍛錬するのに最適な「道場」です。ので、大学院生の皆様も奮ってご投稿ください。

(手塚薫・岩田哲)

『年報 新人文文学』投稿規定

- 一、『年報 新人文文学』は、人文学に関する広範な分野の研究成果を掲載し、内外の研究交流を図ることを目的とし、年一回発行を原則とする。
- 二、投稿原稿の著者は、人文学部及び文学研究科の所属者でなければならない。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。
- 三、原稿は日本語、あるいは英語とし、種類と分量はそれぞれ次のとおりとする。
 - ①原著論文で未発表のもの、日本語なら二〇、〇〇〇字、英語なら一〇、〇〇〇字程度。
 - ②研究ノート・資料・報告など、日本語なら一二、〇〇〇字、英語なら六、〇〇〇字程度。
 - ③書評など、日本語なら四、〇〇〇字、英語なら二、〇〇〇字程度。
 - ④その他、編集委員会が必要と認めたもの。
- 四、原稿は編集委員会で厳正な審査を行い、採否を決定する。編集委員会は査読結果に基づき、原稿の一部変更を求めることがある。

北海学園大学大学院文学研究科
『年報 新人文文学』編集委員会